

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200354		
法人名	株式会社 はなみずき		
事業所名	グループホーム船穂はなみずき		
所在地	岡山県倉敷市船穂町船穂3194-1		
自己評価作成日	平成26年1月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200354-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成26年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム船穂はなみずきは、倉敷市船穂町と真備町の境にある小さなホームです。生まれも育ちも家庭環境も好みも年齢も病気もすべて異なる認知症の高齢者が9人生活しています。皆さん我慢したり不安や不満があると思います。だけど12人の職員と時には笑い、怒り、感動したり、慰めあったり、その人らしく生活しています。めだかの学校です。誰が生徒か先生か、願わくばこの平和な生活が続きますように。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社長夫婦、その息子さん、開設当初からの職員達、そして9人の利用者。一つの大家族のような温かい雰囲気にも包まれているホームである。利用者同士もコミュニケーションがよく取れていて笑顔も多い。11年目を迎えるホームであるが、辞める職員がほとんどいないのも頷ける。途中NPO法人から株式会社に移行したことで、外からの介入がなく経営者家族で連携しながら運営できるという良い点もある。隣接する土地の所有者から「自由に使って下さい」との有難い申し入れもあるが、社長はホームの拡張は今のところ考えていない。どこまでも9人の利用者が安心して楽しく暮らせる生活を第一に考え、日々、職員達と話し合い工夫しながら支援している。自分が年老いたら、こんなホームにお世話になりたいと思えるようなホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今までの生活が続けられその人らしく穏やかに地域で暮らせるように支援しています	職員が他の施設に実習、見学に行く等して、積極的にホームに新しい企画や工夫を取り入れ、職員間で話し合った意見を基に目標に取り組んでいる。今年度のイベントでは「おやつバイキング、お店屋さんごっこ」等を実施する等、利用者の笑顔が溢れ日常生活を実体験できる工夫をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩のときの立ち話、畑で収穫したての野菜の差し入れご近所の情報を教えていたり交流している	ホームに隣接する敷地の所有者から、「この土地を有効活用して下さい」との有難い話がある等、地域の中でホームの存在が理解され、活動もしっかり浸透している。「ふなお福祉マップ」を作成して町内に全戸配布し、とても好評だった。地域のお祭りにも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ふれあいサロンに出席し地域の高齢者と交流している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの入居者の様子や行事の報告をしたり参加者からは他の施設の取組等を教えてもらい参考にしています	船穂高齢者支援センター職員、民生委員、成年後見人、家族等、毎回参加があり定期的に開催している。活動内容、状況報告等を話し合いながら活発な意見交換をしている。	ホームの行事と避難訓練、消火訓練等をタイアップさせる等、職員間で話し合い、地域の人や消防署員が来てくれる機会があれば、ホームの状況を見てもらう良い機会になるのではと思う。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度から介護相談員の派遣を希望しています 福祉事務所のケースワーカーさんとは連絡を密にとっています	利用者の生活面(受診・年金等)のことで、福祉事務所とは日頃から連携を取りながら良い協力関係を築いている。また、市の方へは介護相談員の派遣を申請しているところである。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	所内研修等を行い職員とともに取り組んでいる。 ただ9人の認知症入居者の安全、事故等を考えると施錠については検討中	利用者が勝手口から外に出た事があり、職員間で話し合い、「外に蛇とムカデが出るので出入りしないで下さい」というイラスト入りの張り紙をしたところ効果があった(実際に蛇・ムカデが出る)。身体拘束の研修をしながら職員間で意識の統一を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても所内研修を行ないますが当ホームでは虐待は全くないと確信しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を2名の入居者が利用し後見人さんのお話を聞く機会が多いです		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時はホームの内容やケアについてまた重要事項の説明を行い契約していただきます		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族等の意見を伺っている。日常生活の中で本人の発言にも傾聴している。介護相談員のお話を伺いたい	「はなみずき通信」を毎月発行しており、家族には利用者一人ひとりの写真をそれぞれ個別に掲載した便りを出し、近況報告をしている。毎月面会に来る家族とは、その都度話し合い、運営推進会議、イベント等家族が参加する機会には意見・情報交換の場としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なミーティングを始め、気のついたことはその都度話し合って提案や意見は聞くようにしている。	毎月ミーティングの前には、各自意見を紙に書いてそれを基に話し合いをしている。開設当初からの職員がほとんどで、お互い話しやすい間柄でもあり、申し送り時や業務の合間にいつでも話し合える体制が日頃から出来ている。又、管理者も職員の提案や意見をしっかり受け止めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準も明確にしており、職員のやりがい等の気持ちを大切に、長く働けるように勤めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会を持ち、資質の向上ができるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	船穂町内の介護保険事業所交流会に参加し質の向上の取り組みをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当の職員を決め、不安なく過ごせるように努めている。在宅時のケアマネさんと連絡を密にしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望等を伺い、関係づくりしている。家族と入居者の不安を少なくするように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	そのように努めている。個別の支援や必要な他のサービスの対応も考えている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互い一緒に生活する者として助け合うこともある。高齢者の知識に職員が教えられる事もある。入居者と職員の年齢差が縮まっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力がある時はそうしている。当ホームは家族と縁の薄い人もいるが寂しさを感じずに生活してもらう		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の訪問や馴染みの店へ買物に行く等の支援をしている。週2回朝から夕方まで来てくれる知り合いがおられる	自宅の庭の植木が気になる人には職員が剪定のお世話をし、一緒に自宅に行き庭を見て安心してもらっている。また、馴染みの店へ利用者と一緒に衣服を買いに行く等、職員は利用者の思いを大切にしながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲間づくりや気の合う人と話ができるようにしている。ただ24時間ではなくホールに來たり自室に入ったりしている。男性入居者は利用者同士の関係の支援が難しい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も家族の訪問やボランティアの申し出があり、本人からも年賀状をいただくことがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でその人の人生歴も考慮し、希望、意向を把握できるように対応している。	「宝くじを買って当たったら皆に焼肉をご馳走するわ・・・」という利用者の言葉を聞き、「焼肉が食べたいのかな？」と職員で話し合い、ホームのテラスでのバーベキューを実施する等、利用者の思いや心の中を汲み取る努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者が歩んできた人生や得意な事を日常の会話の中から把握に努めている。カラオケ、読書、飲酒、ドライブ等支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中から利用者の一日の過ごし方、心身の状態できる事等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の話を聞きその人らしい暮らし、必要な介護等の計画をスタッフで検討し作成している。	「ケアプラン立ち上げシート」を活用して、本人の意向や希望、現状等を把握し、管理者(計画作成担当者)と担当の職員等で話し合っって検討、作成している。モニタリングを定期的実施し、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や介護記録等職員間で共有し、実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の人達との交流は大切にしている。地域の中でその人らしい暮らしができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に定期的に受診し適切な医療や助言を受けている。発熱時は医師から様子を尋ねられる	かかりつけ医はホームからも近く、日頃から服薬の事等、電話で相談に乗ってもらうことも多く、緊急時には往診等の対応もあり安心である。利用者の半数近くが独居であった人や家族が遠方の人が多い為、受診はほぼ全員、職員が付き添い同行している現状である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的な介護の中での気づきを看護師に伝え適切な受診や看護を受けられるよう支援している。入居者も看護師を信頼し相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連絡を密にしたり関係づくりを行っている。高齢者が多く病院との関係は必要です		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	過去にも経験したが家族・職員とも相談しながら出来る限りの支援をしていきたいと取り組んでいる。家族の協力が大切です	ホームでの看取りは過去2回経験している。看護師の資格を持っている職員が3名おり、今後も本人・家族からの要望があれば医療機関と協力し、連携を取りながら、本人・家族の意向に添った支援をしていく方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	高齢者が多いので、いつでも対応できるように日常から知識や定期的な訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者も参加して、昼と夜を想定した避難訓練を実施したり、地域の人々の協力を依頼している。先日も火事が近くでありびっくりした。	年2回、避難訓練・防火訓練を実施している。スプリンクラーを各居室にも設置している。今年度は利用者・職員で実際に2階の居室から避難階段を使って外に出る練習をした。	今は自分で歩ける人が多いが、今後高齢化や重度化が進んだ場合に備えて、2階からの避難経路や救助方法等、いま一度、職員間で話し合ってみるのも良いと思う。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーについての勉強をしたり利用者を傷つけない言葉かけをするようにしている。	各居室を訪問の際には突然ドアを開けない、排泄の失敗時は他の人に分からない様にさりげなく支援する等、利用者の人格を尊重した言葉かけや対応に職員は細かい配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや、どうしたいのか尋ね安全面を考え自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしを安心して過ごせるよう見守り声掛けもしながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪やパーマ、ヘアカラーなど本人の希望されるように支援している。ただ入居者の希望とスタッフの思いと異なることがある		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人に合わせ食べやすくしたり介助の必要な人にはさり気なく側についたり出来る人には後片付けをしてもらったりしている。食べたいものが食べれない時は辛い思いをさせる	地産地消の職員の3食手作りの食事は、利用者にとっても楽しみでありとても美味しい。食後はお手伝いが可能な人は各自で下膳、後片付けをし、中には他の人が食べ終わるのを待って下膳を手伝う人もいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態を把握し支援している。食事量と水分量の記録を残す時もある。体重の増減のチェックも行う		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアや、義歯の手入れなど利用者の力に応じ保清に気をつけ声掛け見守りを行う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立していない人には排泄パターンを把握し、タイミングを見て声かけ誘導している。	自分でトイレに行ける人も多く、布パンツの人が3～4人。他の人はリハビリパンツである。毎日ホワイトボードに排泄チェック表を書き、誘導が必要な人には職員が個々の排泄パターンを把握して、声掛け等しながら便座に座って排泄する習慣を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者に応じ食事量運動等予防に取り組んでいる。医師に相談し下剤の服用をやめたこともある		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の体調に問題がなければ、午後のゆっくりした時間を入浴タイムとし楽しんでもらっている。ただ拒否の人もおられ年齢を考慮し対応している	入浴は2日に1回を基本としているが、中には入浴拒否の人もいる。無理強いせず、シャワー浴、清拭、更衣のみにしたり次の日に変更する等、声掛け、タイミング等工夫しながら職員は支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者に応じて日中は自由に過ごしている。夜は眠れない日もあり話し相手やお茶を飲んだり室温調整等眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解できない利用者もいるがお薬はケースに入れ管理している。症状の変化等については医師看護師に相談、確認に勤めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の個性趣味等に合わせカラオケ、ドライブ、散歩、図書館と喜んで過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩ける入居者がほとんどで、日々の散歩以外にも四季の行事やドライブ、外食、地域の催し等に出掛ける。初夏の海も好評でした	希望者と図書館へ行き、本を借りてくるのは恒例となっており、楽しみにしている利用者もいる。沙美海岸までドライブに行き皆で弁当を食べた。「久しぶりに海を見た」と利用者が喜んでくれた。日課となっている散歩や買い物等、職員と利用者で出かける機会も多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はしていないが、欲しいもの必要なものはいっしょに買物に行く。お祭り等での好きなものの買物も出来る。立替です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は自由につかえるように支援しているがほとんどの人はしない。息子さんからお守り携帯をもらっている人もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングルームは狭いですが日当たりが良く、四季折々の景色を感じ居心地良く過ごす事が出来る。工作の得意なスタッフと壁飾りを作る	「狭いながらも楽しい我が家」という言葉がぴったり当てはまる様な、温かい気持ちにさせてくれるリビングルームである。利用者同士のコミュニケーションも活発でその輪の中に職員がいるといったホームの雰囲気であり、殆んどの利用者が日中はここで皆と一緒に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームの中ではお好みの場所で話し相手と仲良く過ごせるようにしている。ホールで一人で過ごしたい人もいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼットは備え付けですがテレビ・ラジカセ・椅子・ぬいぐるみ等お気に入りのものを持ち込みその人らしく過ごせるようにしている。片付けの苦手な人に強要しない	山の上にある団地入り口に建つホームの立地は居室からの見晴らしも良く、採光も明るく開放的な雰囲気がある。利用者の馴染みのある品々でレイアウトされた各居室は個性に溢れ、落ち着いた空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は1・2階ですが元気な人は階段を昇り降りしたり自立した生活を送ってもらっている。高齢者で歩かなくてはと一番遠い居室を選んだ人もおられた		